

## 脳出血後に身体障害を認めた患者に対してランダムソフト

### を用いた運転リハビリテーションを行った1症例

桔梗ヶ原病院

園原 和樹

#### ○抄録

Honda セーフティナビ「ランダムソフト」は、走行コースをランダムに選択することで、適切な難易度の走行コースを用いた運転リハビリテーション訓練を患者に提供することができる。今回、脳出血後遺症として左半身に麻痺と失調を認めた患者に対して、ランダムソフトを用いた運転リハビリテーション訓練を施行した症例を経験したので報告する。

症例は50才、男性。右視床出血でI病院に入院し、病後21日で当院に転院した。入院後のリハビリテーション訓練により、身体障害は左半身の麻痺（Brunnstrom Stage 上肢VI・手指VI・下肢VI）、中等度の左半身の失調を認め、杖なしで歩行が可能な状態となった。

病後134日より、Honda セーフティナビの運転反応検査とランダムソフトを用いた運転リハビリテーション訓練を開始した。ランダムソフトはRandom2ndより開始し、患者の回復段階にあわせて、Random2nd→3rd→4thと難易度が難しくなるように走行コースを変更した。運転リハビリテーション訓練を実施する中で左半身の失調が課題となり、右手操作による旋回ハンドルと、左手操作による左ウィンカーに変更した。その後、病後175日に運転リハビリテーション訓練を終了し、病後209日に教習所で実車評価を行い、病後220日に運転再開となった。

ランダムソフトの活用により、（1）訓練担当者間でドライブシミュレーターの使用 방법이統一され、（2）適切な難易度の走行コースによる訓練を行うことができた。